



## 総合システム開発体系SDAS 特集に寄せて

常務理事  
共通技術本部副本部長

地下善隆

近年、経営のスピード化は、お客様の最優先課題の一つであり、日進月歩のマーケット、ビジネスの動向に迅速に対応していくために、その基盤となる情報システムの短期開発が強く求められています。これからご紹介します「総合システム開発体系SDAS (System Development Architecture & Support facilities)」は、1987年から推進してきたものですが、WebシステムやJavaなどの最新技術に対応させ、一新して2003年11月に発表致しました。

SDASが、お客様に提供するものは、「高信頼・高品質」な情報システムの「短期開発」です。お客様の新規ビジネス参入、新サービスの提供サイクルはどんどん短くなってきています。これに応えるべく、いかに早く情報システムを開発・構築するかが、大きなポイントです。つまり、情報システムが短期に開発できれば、お客様の次の新しいビジネスもより短時間に投入することが可能となり、お客様の利益アップへ貢献できる、これがSDASのねらいです。

今回のSDASは、富士通のメインフレームからWebシステムに至るアプリケーション構築技術を集大成したもので、これまで富士通が培ってきた、大規模システムの構築ノウハウに、EA (Enterprise Architecture) などの新しい手法、業界標準であるUML (Unified Modeling Language)、オープンソースのEclipseベースの開発環境などの新しいツール・技術を統合し、Webアプリケーション開発の方法をガイドラインとして体系化、標準化したものです。SDASは、開発工程の上流の分析、設計工程から下流の製造、テスト、運用、保守の工程までの開発標準や技法、開発ツールをカバーしています。

本特集号では、SDASの開発ツールや技術だけでなく、関連する経済産業省の支援を受けて設立されたSEC (Software Engineering Center) でのソフトウェア開発手法の改善活動、トヨタ生産方式をソフトウェア開発分野に適用したプロセス改善の取り組み、およびSDASの適用事例をご紹介します。

富士通は、今後もSOA (Service Oriented Architecture) などの最新の技術や開発現場からのフィードバックを取り入れて継続的に改善に取り組むと同時に、SDASをSIビジネスに積極的に適用し、システム構築サービスを通じて、お客様のビジネスに貢献していきます。本特集号が皆さまのシステム開発のご参考になれば幸いです。